会 議 録

会議の名称		令和8年度第2回守谷市地域福祉推進委員会		
開催日時		令和8年10月6日（火） 開会：14時00分　　閉会：16時30分		
開催場所		市役所 大会議室		
事務局（担当課）		健幸福祉部 社会福祉課		
出席者	委 員	有原委員、石澤委員、宇佐見委員、森山委員、大久保委員、山下委員、友松委員、小野寺委員、竹尾委員、柗元委員、塚越委員、大塚委員、山口委員、川名委員、長津委員、佐藤委員　　計16人 （欠席者 ： 荒川委員、國貞委員、山口委員　計 3人）		
	事務局	健幸福祉部 羽田部長、こども未来部 森山部長、 社会福祉課 高橋課長、芳師渡課長補佐、北川係長、 健幸長寿課 森山課長、横山副参事、石福係長、 市民協働推進課 中山課長、交通防災課 高橋課長補佐、 教育指導課 青山副参事、社会福祉協議会 髙橋事務局長 （株）環境総合研究所 大谷氏、安島氏　　計14人		
公開・非公開の状況		■公開　□非公開　□一部公開	傍聴者数	0人
公開不可の場合はその理由		守谷市審議会等の会議の公開に関する指針		
会 議 次 第		1 開　会 2 あいさつ 3 議　題 （1）第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について （2）そのほか 4 閉 会		

確定年月日	会議録署名
令和8年10月20日	委員長　森山 克彦 議事録署名人　小野寺 忠夫 竹尾 弘和

１ 開　会

２ あいさつ

事務局職員の自己紹介

３ 議　題

（１） 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について

高橋社会福祉課長から資料に沿って説明

主なご意見・ご質問

■ **川名委員**

- 社会福祉協議会のげんき館で実施している健康麻雀等の取組は好評である。こうしたきめ細かな取組が第４期守谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画（以下、第４期計画という。）の要素として含まれることを期待している。
- 第４期計画 P42「モコバス・デマンド乗合交通等の利便性の向上」に関し、モコバスは運行ルート固定、デマンド乗合交通は予約が困難という課題がある。モコバスについては、運行経費や利用料収入等を精査し、市民の利用料無料化などを検討してほしい。これにより、市民の利便性や住みやすさ向上が見込めるのではないか。

➢ **健幸福祉部 羽田部長**

- 現在、モコバスが通っていない高野、同地、赤法花地区で実証運行を実施している。今後、ヤクルトスワローズ２軍球場施設の開業も控える中、守谷市地域公共交通活性化協議会で検討を進めている。デマンド乗合交通については、ドライバー確保の課題があり拡充が難しい。私自身も当協議会に参加しており、皆様からのご意見を協議会で伝えていきたい。

■ **宇佐見委員**

- 第４期計画は前期計画の評価等を踏まえたものでよいか。また、今回配布された第４期計画（案）の内容についてパブリックコメントを行うという認識でよいか。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- そのとおりである。

➢ **宇佐見委員**

- 第４期計画は内容が大枠の記載に留まっており、市や社会福祉協議会の取組の詳細が市民に伝わりにくく、もったいないと感じる。
- 外国人が増えており、日本語が話せない生徒もいる。そうした方に対して、日本語を教えるボランティアもあるが、その数は多くない。どのような支援があるのか。

➢ **市民協働推進課 中山課長**

- 市では、外国人対応について守谷市国際交流協会と連携しており、守谷市国際交流協会が日本語講座を実施している。また、多文化共生社会の実現に向けて、国を挙げて取組を進める中で、市ではドイツから迎えた国際交流員を活用し、外国人などに向けた防災講習会等の多文化共生事業を実施し、生活知識の向上を図っている。そのほか、市役所窓口では外国語を理解できる職員が対応したり、市職員に対して「やさしい日本語」研修を実施するなどの対応を行っている。

➢ **教育指導課 青山副参事**

- 日本語指導が必要な児童生徒が転入した場合、学校が窓口となり、状況の把握、本人等の希望を確認したうえで、有償ボランティアの語学指導員を配置し、学校の授業に参加してもらっている。また、県の事業を活用し、ニーズに応じてオンラインでの日本語指導等を実施している。

■ **大森委員**

- 「基本目標 Ⅰ 基本施策 2 活動団体への支援」に関連し、シルバーリハビリ体操指導士会では、指導士資格取得後 5 年程度で約 7 割が活動を辞めている。助成金はあるものの、交通費や活動服代等は自己負担である。他市ではポイント制度がある。
- 境町では、シニアクラブのイベントバスを市で確保している。楽しいイベントがあれば活動意欲も増すため、活動継続のための仕組みが必要。

➢ **健幸長寿課 森山課長**

- シルバーリハビリ体操は、市からシルバーリハビリ体操指導士会に業務委託している事業である。市からの委託料で指導士会が運営している。指導士会とは、今後も運営方法等を協議していきたい。
- シニアクラブについては、シニアクラブ連合会と守谷市主催のシニアスポーツ大会については、市でバスを確保しているが、それ以外の場面での市のバス確保は困難である。今年度からシニアクラブの事務局運営を市から社会福祉協議会に委託しており、社会福祉協議会のネットワークを生かした運営を期待している。

➢ **森山委員長**

- 持続可能な活動には、楽しみも必要な要素であり、予算配分についても検討してほしい。

■ **山下委員**

- 地域福祉に年齢や性別は関係なく、担い手の確保が重要である。担い手を途切れさせないためには、高齢者だけでなく若者の意見を聞くべきだ。先日、自治会で若い世代の家族から意見を聞く場を設けたところ、その家族の子どもから自治会活動の困りごとを聞かれ、毎月実施している広報紙の配布作業を挙げた。中高生に有償で手伝ってもらうのはどうかという提案があり、今後も話し合いを続けたい。自分たちだけの世界で解決しようとせず、多様な人と意見交換をしながら、取組を進めていけたら良いと思う。
- 市や社会福祉協議会も受身ではなく、積極的に出向いていく姿勢が必要。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

◆ 山下委員のお話は、まさに地域福祉の第一歩だと思う。地域の小さな声や取組もくみ上げられる仕組みをつくっていくことで、次世代の担い手確保・育成につながると考えている。そうした考えのもと、第４期計画では、市と社会福祉協議会の取組だけを記載するのではなく、市民・地域、市、社会福祉協議会の3者の特性に応じた取組を記載し、3 者が渾然一体となって地域福祉を推進していくこととしている。

■ **大塚委員**

◆ 子ども食堂でも、参加してくれた子どもから折り紙ボランティアの提案を受け、現在までボランティアとして携わってくれている。また、小中学校の先生方の協力を得ながら、学校を通じてチラシを配布している中で、数名の中高生ボランティアの参加も見られるようになった。若者にもボランティアを身近に感じてもらうことが大切。どのような形であれ、若者のボランティアの入口が増えていることは良いことである。

◆ P28「本計画で取り組むべき課題」の課題1に「身近な地域活動において停滞傾向が見られます」といった記載があるが、子ども食堂は昨年度 1,807 名の参加があった。もりや公益活動促進協会では、51 団体が年間 663 回の事業を実施しており、27,924 人の方が事業に参加している。こうした前向きな実態もふまえた方が良いのではないか。

◆ 市の職員はまちづくり協議会等の地域の活動のデータ等をきちんと把握するとともに、もっと積極的に地域のボランティア等の場に出向き、その場の空気を肌で感じ、市の施策に生かしていく必要がある。市にボランティア休暇制度があるのであれば、有効に活用してほしい。

➢ **健幸福祉部 羽田部長**

◆ 市では、ボランティア休暇制度はない。

◆ 市職員も地域の活動の現場で取組を肌で感じてほしいといったご意見はそのとおりである。

◆ 市では地域担当職員制度もあり、地域のイベントに参加する機会もあるが、普段の活動に参加するのとは少し違う部分もあると思う。地域の活動に試行的に参加するのも選択肢の 1 つ。職員の意識づくりが必要だと思う。

➢ **友松委員**

◆ まちづくり協議会のイベントに市職員も来てくれている事例はある。

◆ ボランティア講座を受けても活動に参加しない、活動を継続しない人もいる中で、シルバーリハビリ指導士の方が3割程度の方が残っていることはすごいことである。

◆ まちづくり協議会の広報部会にも若者が増えており、そうした面に期待を寄せている。

➢ **山下委員**

◆ 市役所の中の風通しを良くし、職員が地域に出やすい雰囲気をつくってほしい。

◆ 市や社会福祉協議会の取組について PR が足りない。市民の約８割は市の広報紙で市の取組を把握しているとのことだが、もっと積極的な情報発信をお願いしたい。

- みずき野地区では、3 か月に 1 回「もったいない市」を行っており、多くの方が来るようになってきた。他の地域の取組等を取り入れたり、協力しながら取組を進めていくと良い。様々なことをやっていく中で何か良いきっかけが見つかれば良いと考えている。

■ **長津委員**

- 第 4 期計画は、取組の全体の方向性を示したものであり、市民が理解するのは難しい。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- 地域福祉計画は各福祉分野の総合計画に位置づけられる。そのため、具体的な事業名等は敢えて記載せず、取組の方向性を示すに留めることで、計画期間 5 年間での新たな動き等を反映しやすくしている。なお、具体的な取組は、毎年度の進行管理の中で各所管部署が内容や数値目標を定める予定である。

➢ **森山委員長**

- 来年度以降、細かな取組が示されるということか。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- 第 4 期計画書に細かな取組内容を追記するものではないが、毎年度、細かな取組を見える化していきたい。

➢ **山下委員**

- 毎年度、きちんと PDCA サイクルをまわしていくということか。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- 毎年度 PDCA サイクルをまわしていき、その 5 年分の蓄積が次期の第 5 期計画につながっていくものと考えている。

➢ **宇佐見委員**

- 計画の進行管理の結果はどのように見える化していくのか。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- 計画の進行管理については、各所管部署で各取組の評価等を行った上で、庁内の地域福祉計画検討委員会で状況を共有する。当委員会でも共有する予定である。なお、当委員会の資料等は、市ホームページでも掲載し、市民にも公表する予定である。

■ **長津委員**

- 地域担当職員の役割があまりわからない。自治会の総会等には出席してくれていて、地域の課題等はある程度共有されていると思うが、市側から具体的に何か動いてくれているといったことはないと思われる。社会福祉協議会も積極的な動きは見られない。
- 市や社会福祉協議会の取組の情報発信については、つくばエクスプレス等とも連携したらどうか。
- 自分の地域の自治会の加入率は約 2 割で市内でも低い。年 1 回程度、区長業務の説明会があるようだが、説明動画をスマホなどでも視聴できるようにし、わざわざ市役所に出向かなくて良い

方法を検討してほしい。

- 障がいがある者にとって、市役所は敷居が高い。市役所窓口についても、どの職員に聞いてもある程度の案内をしてもらえるようにしてもらえると有難い。
- 成年後見制度は、制度利用の必要性がなくなった後も、本人の判断能力が回復しない限り利用を継続し続けなければならず、その期間、成年後見人への報酬も発生し続けるといった課題もある。

➢ **健幸長寿課 石福係長**

- 成年後見制度については、法改正により、例えば、相続手続きのための支援が終了して必要性がなくなったときに、利用を終了できるようになる。現在、改正法の施行に向け、具体的な運用の検討が進んでいるところである。成年後見制度については、より一層の周知を図っていきたい。

■ **柗元委員**

- P47に各種相談窓口の記載があるが、健康ではない方にはなかなか情報が伝わりにくい。
- 自身の自治会では地域の公民館を開放しており、年間約 200 回、約 3,000 名の使用がある。使用料は無料、光熱費は自治会で負担している。
- 介護施設になかなか入所できないといった声を聞くが、新たに建設される予定はあるのか。

➢ **健幸福祉部 羽田部長**

- 現在、高齢者福祉計画・介護保険事業計画も策定を進めており、その中で介護施設のニーズについて精査している。介護施設が足りない場合、市で介護施設を建設するのではなく、事業所を募集することになる。

■ **有原委員**

- 市内の外国人が増えている。転入制限などについて教えてほしい。

➢ **市民協働推進課 中山課長**

- 外国人の入国審査は国が行う。守谷市への転入に際して、制限するための審査等は特にない。

■ **有原委員**

- 市役所窓口時間が短縮されるのであれば、その時間を活用して地域の活動の現場に出向いてみると良い。

➢ **こども未来部 森山部長**

- 窓口時間の短縮を有効に生かしていきたいと考えている。

➢ **山下委員**

- 開庁時間を短縮するだけで、それ以外の時間も通常の職員の勤務時間であると聞いている。

■ **石澤委員**

- 委員会の終了時間を予め決めてほしい。

- 委員から意見が多く出るのは、普段のコミュニケーション不足の表れだと思う。

■ **大久保委員**

- 計画書の内容は市、社会福祉協議会の崇高な理念をまとめたものであるという認識である。
- 計画書の記載について、読みにくい文章等があるので訂正してほしい。

➢ **大塚委員**

- 第 3 章以降は読みやすいが、第 1 章、第 2 章については文章も長く読みにくい。箇条書き等にすると読みやすくなる。

■ **竹尾委員**

- 担い手がいないという理由で民生委員を引き受けた。元からボランティア精神が豊かだった訳ではないが、民生委員を務めている中で、ボランティア精神が芽生えてくる。何事も始めるきっかけが必要である。

■ **佐藤委員**

➢ 社会福祉協議会で今年度実施された夏ボラ（夏休みボランティア）は良い取組であったと思う。

➢ 子どもが参加すれば親も参加するので、子どもを巻き込んだ活動を推進してほしい。

■ **塚越委員**

- シルバーリハビリ指導士会は会員が約 100 名おり、市内 55 箇所で教室やサロンを年約 1,500 回開催し、約 18,000 人の方に参加していただいている。活動の維持、継続が課題である。
- 今後、取組が具体化していくのを楽しみにしている。

■ **森山委員長**

- P32のイラストにおいて、「市民・地域」を「地域福祉の主役」と位置付けているが、市職員も地域福祉の直接の担い手の一員であるという意識を持ってほしい。

■ **山下委員**

- P11、P28にみずき野地区で特に高齢化が進んでいるといった趣旨の記載があるが、表現を修正してほしい。

➢ **社会福祉課 高橋課長**

- 承知した。記載の内容については検討させていただく。

4 閉 会